

# 知的財産業務における認知的転換: Gemini 3 Deep Thinkによる「生成」から「推論」へのパラダイムシフトと戦略的変革に関する包括的分析レポート

Gemini 3 pro

## 1. エグゼクティブサマリー: 生成AIから推論AIへの進化がもたらす知財の実務的転換

2025年11月、GoogleによるGemini 3アーキテクチャの発表は、法務テクノロジー、とりわけ知的財産(IP)分野における歴史的な分岐点を示唆しています。Gemini 3 Proの登場により、特許明細書の草案作成やマルチモーダルな先行技術調査といった「生成」と「検索」のタスクはすでに変革の途上にあります。しかし、**Gemini 3 Deep Think**の導入は、確率的なテキスト生成から\*\*推論時計算(Inference-Time Compute)\*\*への根本的な移行を意味し、これまで人間の弁理士や専門家のみが担い得た高度な判断業務の領域にAIが踏み込むことを可能にします<sup>1</sup>。

本レポートは、Gemini 3 Proによって実現された業務変革をベースラインとしつつ、Gemini 3 Deep Thinkがどのようにしてその限界を超越し、知財業務の質的変革をもたらすかを体系的に分析します。Gemini 3 Proは、100万トークンを超えるコンテキストウィンドウとマルチモーダル処理能力により、膨大な特許文献の要約やドラフティング、視覚的情報の検索において卓越した効率性を発揮します<sup>3</sup>。しかし、知財法務の本質は情報の「集約」ではなく、論理の「構築」にあります。Deep Thinkモードは、複数の仮説を並行して検証する高度な推論能力(System 2 Thinking)を有し、難関ベンチマークである\*\*ARC-AGI-2 (45.1%)やHumanity's Last Exam (41.0%)\*\*において記録的なスコアを達成しています<sup>5</sup>。

本分析では、Deep Thinkがもたらす変革を、「進歩性(Inventive Step)の論理構築」、「クレーム解釈(Claim Construction)の多角的シミュレーション」、「均等論(Doctrine of Equivalents)を含む侵害判断の高度化」という3つの核心的領域において詳述します。Gemini 3 Proが知財業務の「事務的・生成的レイヤー」を最適化したのに対し、Gemini 3 Deep Thinkは「実体的・戦略的レイヤー」を再定義し、AIの役割をパラリーガルから、複雑な法的推論を行うジュニア・アソシエイトのレベルへと引き上げるものと結論付けられます。

---

## 2. 技術的差別化: Gemini 3 ProとDeep Thinkにおける「推論」の構造的相違

知財業務への具体的影響を論じる前に、Gemini 3 ProとDeep Thinkのアーキテクチャ上の相違を明確にする必要があります。この技術的な差異こそが、法的なアウトプットの質を決定づける要因となるからです。

## 2.1 Gemini 3 Pro: マルチモーダル処理と高速なパターン認識

Gemini 3 Proは、高スループットかつ低レイテンシでのマルチモーダル理解に最適化されています。テキスト、画像、動画、コード、そしてPDF文書をネイティブに処理する能力を持ち、数十万ページに及ぶファイルヒストリー(包袋)の一括読み込みや、特許図面の解析において圧倒的なパフォーマンスを示します<sup>3</sup>。知財実務において、これは以下の能力として具現化されます。

- 高速な情報摂取(**Ingestion**): 膨大な技術文献や先行技術を瞬時に読み込み、関連箇所を抽出する能力。
- マルチモーダル検索: 「ヒンジ構造を持つドローン」といったクエリに対し、テキストだけでなく図面の形状からも類似性を判断する能力。
- エージェントックな実行: Pythonコードを実行して特許データベースをスクレイピングしたり、特定のフォーマットでIDS(情報開示陳述書)を作成したりする定型業務の自動化<sup>4</sup>。

しかし、Proの思考モードは主に「システム1(直感的・即応的思考)」に分類されます。これは、文脈に基づき最も確率の高い次のトークンを予測するプロセスであり、多段階の論理的整合性を厳密に検証するプロセスではありません。そのため、複雑な法的ロジックの構築においては、表層的な模倣に留まるリスクがありました。

## 2.2 Gemini 3 Deep Think: 推論時計算による「思考」の深化

これに対し、Deep Thinkは\*\*推論時計算(Inference-Time Compute)\*\*を導入しています。これは、回答を出力する前に、モデルが内部で時間をかけて「熟考」するプロセスです。AlphaProofなどの強化学習技術を統合し、人間の「システム2(熟考的・論理的思考)」に近いプロセスを模倣します<sup>2</sup>。知財分野において決定的な意味を持つ機能は以下の通りです。

- 並列推論(**Parallel Reasoning**): 複数の推論パス(仮説)を同時に展開し、検証します。法的な文脈では、これは「権利行使側(原告)」と「無効主張側(被告)」の論理を同時にシミュレーションし、対立する論点から最も堅牢な結論を導き出すことを可能にします<sup>1</sup>。
- 反復的リファインメント(**Iterative Refinement**): 一度の出力で完結せず、内部的な自己批判ループを通じて論理の矛盾を修正します。これにより、判例の引用ミスや論理的飛躍といった「ハルシネーション(幻覚)」のリスクが低減されます。
- 抽象的汎化能力: 抽象的な視覚推論テストであるARC-AGI-2での高スコアは、訓練データになかった未知のパターンや法則性を理解する能力を示唆しており、これは特許における「均等論」や「設計回避」の判断に不可欠な能力です<sup>5</sup>。

表1: 知財業務における機能比較と質的転換

機能領域	Gemini 3 Pro (Standard)	Gemini 3 Deep Think (Reasoning)	知財業務へのインプ リケーション

認知モード	システム1(高速・パターン認識)	システム2(熟考・論理検証)	Proは明細書を書くが、Deep Thinkは法的論拠を構築する。
仮説検証	線形処理(単一パスでの回答生成)	並列処理(複数仮説の同時検証)	Deep Thinkは、進歩性否定のための「動機付け」を複数パターン検証可能。
視覚的論理	物体認識・OCR・図面検索	抽象的視覚推論(Arc-AGI-2)	Deep Thinkは、構造が異なっても機能が同一である「均等物」を図面から特定可能。
エラー訂正	ユーザーのプロンプトによる修正が必要	内部的な自己修正ループを持つ	Deep Thinkは、法的推論の矛盾を自律的に検出し、修正してから出力する。
主要ユースケース	検索、要約、定型ドラフティング	戦略立案、価値評価、無効資料調査	業務効率化ツールから、意思決定支援システムへの進化。

### 3. 先行技術調査の変革:セマンティック検索から「進歩性」シミュレーションへ

Gemini 3 Deep Thinkがもたらす最も即時的かつ深遠な影響は、特許要件の核心である\*\*進歩性(Inventive Step / Non-Obviousness)\*\*の判断プロセスにおいて顕在化すると予測されます。

#### 3.1 Gemini 3 Proの限界: 検索と関連性の提示

Gemini 3 Proは、従来のキーワード検索をセマンティック検索へと進化させました。「伸縮可能なアームを持つ自律型ドローン」というクエリに対し、「把持機構を有する無人航空機」という概念的に一致する文献を見つけ出すことができます<sup>3</sup>。しかし、Proの限界は、見つかった文献と発明との間の「論理的距離」を埋める能力にあります。Proは関連文献のリストを作成し、その内容を要約することには長けていますが、当業者(PHOSITA)が文献Aと文献Bを組み合わせる\*\*動機(Motivation to Combine)\*\*が存在するか否かを説得力を持って論証することは苦手としていました。結果として、Proのアウトプットは「調査報告書」の域を出ず、「特許性鑑定書」のレベルには達していませんでし

た。

## 3.2 Deep Thinkによる「当業者」の思考シミュレーション

Gemini 3 Deep Thinkは、並列推論チェーンを用いることで、この「検索」と「分析」のギャップを埋めることが期待されます。具体的には、特許審査官や無効審判請求人が行うような論理構築をシミュレーションします<sup>1</sup>。

### 3.2.1 組み合わせの動機(Motivation to Combine)の多角的検証

Deep Thinkは、単に構成要件が一致する文献を見つけるだけでなく、それらを組み合わせることが「容易」であるか、それとも「阻害要因」があるかを論理的に検証します。

- 化学・バイオ分野の事例：例えば、特定の化合物に関する特許調査において、文献Aがメチル基を持つ化合物を開示し、文献Bが別の文脈でメチル基をエチル基に置換する技術を開示しているとします。Proであれば「類似構造あり」と判定するでしょう。しかしDeep Thinkは、その置換が当該医薬品の薬理作用において予測可能な効果をもたらすか、あるいは予期せぬ効果(顕著な効果)をもたらす可能性があるかを、化学的な知識ベースと論理推論を用いて分析します。もし文献Aの中に「構造変更は活性を低下させる」といった示唆があれば、Deep Thinkはそれを\*\*阻害要因(Teaching Away)\*\*として検出し、進歩性の主張を補強する論拠として提示できます<sup>14</sup>。

### 3.2.2 阻害要因(Teaching Away)の検出と論理構成

進歩性の判断において、先行技術が発明の構成を採用することを「思いとどまらせる」記載があるかどうかは極めて重要です。Deep Thinkは、「ニュアンス」と「深さ」を理解する能力<sup>4</sup>により、文献内の否定的な文脈や暗黙の前提を読み取ることができます。

- 論理の深掘り：「文献Xは方法Yについて言及しているが、コスト高になるため推奨しないと記述している。したがって、当業者が文献Xに基づいて方法Yを採用する動機は低い」といった高度な反論ロジックを自律的に構築できると推測されます。これは、単なるテキスト抽出では不可能な、文脈依存の論理操作です。

### 3.2.3 反復的な調査戦略の自律実行

Proが一回のプロンプトに対して一回の検索を実行するのに対し、Deep Thinkは調査プロセス自体を動的に修正する能力を持ちます。「仮説:この発明は文献Aによって新規性を否定される」という思考からスタートし、従属請求項の特定の限定事項によってその仮説が崩れた場合、Deep Thinkは自律的に「では、その限定事項を開示する文献Cを探し、文献Aと組み合わせる論理が可能か検証する」という次のステップへ移行します。これは、熟練したサーチャーが行う\*\*反復的リファインメント(Iterative Refinement)\*\*の自動化に他なりません<sup>10</sup>。

結論的洞察：これにより、AIのアウトプットは単なる「PDFリスト」から、各文献の関連度と無効化の可能性をパーセンテージで示した\*\*「論理的妥当性スコア付きの鑑定メモ」\*\*へと変貌します。

## 4. クレームドラフティングと解釈:「Markman」シミュレーションの実現

特許請求の範囲(クレーム)の作成は、言語的な精密さと将来の法的リスクを予測する戦略性が求められる作業です。Gemini 3 Proは形式的なドラフティングを効率化しましたが、Deep Thinkはそのクレームが将来どのように解釈されるかをストレステストする機能を提供します。

### 4.1 敵対的クレーム分析(Adversarial Claim Analysis)

Gemini 3 Proは、いわゆる「Vibe Coding」や構造化出力により、標準的なフォーマットに従ったクレーム案を生成することに優れています<sup>4</sup>。しかし、その文言が5年後の訴訟でどのように解釈されるかという先見性には欠けていました。

Deep Thinkの「複数の仮説を同時に探索する」能力<sup>6</sup>は、敵対的クレーム分析という新たなユースケースを可能にします。

- レッドチーム・アプローチ: ユーザーはDeep Thinkに対し、「敵対的な審査官」や「特許無効を主張する競合他社」の役割を与え、作成したクレーム案を攻撃させることができます。Deep Thinkは並列推論を用いて、不明瞭性(米国特許法112条)や新規性欠如(102条)の根拠となり得る複数の論理パスを同時に生成し、クレームの脆弱性を洗い出します。
- 権利範囲の可視化と最適化: Deep Thinkは、クレームの文言がカバーする範囲と、先行技術の境界線を概念的にマッピングします。広すぎるクレームは無効化されやすく、狭すぎるクレームは回避されやすいというトレードオフの中で、Deep Thinkは「先行技術を回避しつつ、最大限の権利範囲を確保する」ための修正案を提示します。これは、相反する制約条件をリアルタイムで調整する高度な思考連鎖(Chain of Thought)を必要とするタスクであり、Deep Thinkの真骨頂と言えます<sup>17</sup>。

### 4.2 機能的クレームとMeans-Plus-Functionの解釈

ソフトウェアや機械分野では、「データを処理する手段(means for processing data)」のような機能的表現が多用されます。これらのクレームの解釈は、明細書中に開示された具体的なアルゴリズムや構造に限定されるか(米国特許法112条(f))、あるいは広く解釈されるかという微妙な判断を伴います。

- 実施可能要件(Enablement)のトレーシング: Deep Thinkは、Proから継承した巨大なコンテキストウィンドウとSystem 2の論理力を組み合わせることで、クレーム文言と明細書中の記述、フローチャート、コードスニペットとの間のリンクを厳密に検証します。「このクレーム要素は、明細書の段落のアルゴリズムによってサポートされているか?」という問いに対し、Deep Thinkはマルチモーダルな推論(MMMU-Proスコア81%の実力)を駆使して整合性をチェックし、サポート要件違反のリスクを事前に警告します<sup>3</sup>。

---

## 5. 侵害判断とFTO(Freedom to Operate): 均等論への拡



# 張

知財業務において最もリスクが高く、かつ高度な判断を要するのが、他社特許の侵害判断(Infringement Analysis)および自社製品のFTO調査です。ここでは、単なるテキストの一致ではなく、技術的思想の同一性を判断する類推能力が求められます。

## 5.1 均等論(Doctrine of Equivalents: DoE)の適用

文言侵害(Literal Infringement)の判断は、「製品にハンドルがあるか? Yes/No」といったテキストマッチングであり、これはGemini 3 Proでも一定レベル可能です。しかし、均等論の判断には、「構成要件が置換された場合でも、実質的に同一の機能を、実質的に同一の方法で果たし、同一の結果を得られるか(Function-Way-Resultテスト)」という高度な抽象化思考が必要です。

- 抽象推論能力の活用: ここで重要になるのが、Deep Thinkが記録した\*\*ARC-AGI-2における45.1%\*\*というスコアです。このベンチマークは、訓練データにはない未知のパターンや法則性を、少数の例から推論・一般化する能力(Fluid Intelligence)を測定するものです<sup>1</sup>。
- シナリオ: 例えば、特許が「機械的バネ」を請求しているのに対し、イ号物件(被告製品)が「磁気サスペンション」を使用している場合。Proであれば「バネと磁石は異なる」と判定する可能性があります。しかしDeep Thinkは、物理法則に基づき、「両者は構造的には異なるが、エネルギーを蓄積して反発させるという『機能』は同一であり、磁場による反発という『方法』の違いが本質的か否か」を推論できます。これにより、構造の違いを超えた機能的な等価性を論証し、均等侵害の成立可能性について、より人間に近い、あるいは人間が見落とすような物理的洞察に基づいた意見を提示できると推測されます。

## 5.2 複雑なFTOマトリクスの並列処理

数千の部品からなる製品のFTO調査は、数千件の特許との照合を必要とする「パテント・シケット(特許の藪)」への挑戦です。

- スケーラブルな推論: Deep Thinkのエージェントワークフローは、製品を構成要素に分解し、それぞれの要素について並列的にFTO分析を実行します。重要なのは、単に関連特許をリストアップするだけでなく、「攻撃的な競合他社が保有する特許」や「訴訟リスクの高い技術分野」を優先順位付けし、無関係な文献を論理的に除外する「プランニング能力」です<sup>19</sup>。Deep Thinkは、膨大なノイズの中から真のリスクを抽出する戦略的なフィルタリングを実行します。

---

## 6. 戦略的知財管理: エージェントワークフローと価値評価

Gemini Agent機能とGoogle Antigravityプラットフォームの導入<sup>8</sup>は、Deep Thinkの推論能力を単発の質問応答から、自律的な業務遂行へと拡張します。これにより「エージェントIP(Agentic IP)」と呼ぶべき新たな業務形態が出現します。

## 6.1 自律的なポートフォリオ棚卸し(Pruning)

大企業は、維持費だけで年間数億円を要する休眠特許を抱えています。これまでの棚卸しは、人手によるコストと時間が障壁となっていました。

- **Deep Think**による最適化: Deep Thinkを搭載したエージェントは、1万件の特許ポートフォリオを、企業の現在の製品ロードマップや競合他社の動向と照らし合わせて分析できます。「特許Aは2022年に製造中止した製品技術をカバーしている。競合Yがこの分野に参入しているが、特許Aの権利範囲は狭すぎて回避可能である。推奨:放棄またはライセンスアウト」といった複合的な判断を、技術・市場・法律の3つの視点を統合して下すことが可能です<sup>20</sup>。

## 6.2 競合情報の分析とウォーゲーム(War Gaming)

- シナリオ・シミュレーション: Deep Thinkは、訴訟シミュレーション(ウォーゲーム)を実行できます。「もし我々が特許Zで競合Xを訴えた場合、競合Xはそのポートフォリオからどの特許を使ってカウンター訴訟(逆提訴)を仕掛けてくるか?」Deep Thinkは競合のポートフォリオを、前述の「敵対的クレーム分析」と同様のロジックでスキャンし、最も脅威となる特許を特定します。これにより、知財戦略は「事後的な防御」から「予測的なモデリング」へと進化し、訴訟提起前の勝率予測や和解交渉のシナリオ策定において決定的な役割を果たします。

---

# 7. 生成UI(Generative UI)の知財への応用

Gemini 3エコシステムの隠れたキラー機能である**Generative UI**<sup>23</sup>は、Deep Thinkの高度な推論結果を視覚的に表現することで、知財情報の「可読性」を劇的に向上させます。

## 7.1 ダイナミック・クレームチャート

現在、侵害分析に用いられるクレームチャート(構成要件対比表)は、WordやExcel上の静的なテキストです。Gemini 3 Deep Thinkは、これをインタラクティブなダッシュボードとして生成できます。

- 機能: ユーザーがクレームの構成要件(例:「締結手段」)にカーソルを合わせると、Deep Thinkが実施可能要件分析に基づいて特定した、明細書中の対応する図面箇所や段落がポップアップ表示されます。
- リスクヒートマップ: 文言侵害か均等侵害かの判定に加え、その論理的強弱を色分け(ヒートマップ)で表示します。Deep Thinkが「侵害の可能性が高いが、反論の余地もある」と判断した箇所は黄色で表示され、クリックするとその背後にある推論プロセス(Chain of Thought)が表示される仕組みです<sup>25</sup>。

## 7.2 技術進化のインタラクティブ・タイムライン

Deep Thinkは、膨大な先行技術文献を時系列に整理し、技術の進化系統樹を視覚化します。単なるリストではなく、技術課題と解決手段の変遷を構造化して表示することで、発明者は既存技術の空白地帯(ホワイトスペース)を視覚的に把握し、新たな発明の着想を得ることが容易になります<sup>27</sup>。

## 8. データ主導の洞察: 業務効率と精度の定量的予測

Gemini 3 ProとDeep Thinkのベンチマークスコアの差異<sup>5</sup>に基づき、各知財タスクにおける効率と精度の向上を予測します。

表2: 知財タスクにおけるインパクト予測 (Pro vs. Deep Think)

知財タスク	Gemini 3 Pro (ベースライン)	Gemini 3 Deep Think (予測される進化)	Deep Thinkによる「デルタ(差分)」の本質
新規性調査	高い再現率 (Recall) / 中程度の適合率	高い再現率 / 高い適合率 (Precision)	論証力: 関連性だけでなく「なぜ関連するか」の論理を提示。
進歩性判断	弱い (文献の組み合わせが苦手)	強い (並列仮説検証が可能)	複合論理: 3つ以上の文献を、明確な動機付けと共に組み合わせる能力。
明細書作成	高速なボイラープレート生成	戦略的ドラフティング	防御力: 作成段階で審査官の拒絶理由を予測し、予防線を張る。
拒絶対応	引例の要約と定型的な反論	審査官の論理矛盾の指摘	勝率向上: 審査官の認定における論理的誤謬 (Logical Fallacies) を特定する <sup>29</sup> 。
意匠・図面分析	画像分類・類似検索	意匠権侵害判断	抽象的一致: 幾何学的形状だけでなく、視覚的印象 (美感) の共通性を推論。

注: この「デルタ」は、GPQA Diamond (93.8% vs 91.9%) や Humanity's Last Exam (41% vs 37.5%) といった、推論負荷の高いタスクにおける Deep Think の優位性に基づいています。数値上の差は数ポイントであっても、法務のようなエッジケースが勝敗を分ける分野では、この差が決定的な価値を



持ちます。

---

## 9. リスク、課題、および倫理的配慮

「推論するAI」の導入は、知財業務に計り知れない恩恵をもたらす一方で、新たなリスクと倫理的課題を提起します。

### 9.1 論理のハルシネーション (Hallucination of Logic)

Gemini 3 Proが「事実(存在しない判例など)」を捏造するリスクがあるのに対し、Deep Thinkは「論理」を捏造するリスクがあります。一見すると極めて説得力があり、論理的に整合しているように見えるが、法的には誤っている(例: 特許適格性に関するAlice/Mayoテストの微妙な適用ミスなど)議論を構築する可能性があります。論理が洗練されている分、人間の専門家でもその誤りを見抜くことが難しくなるというパラドックスが生じます<sup>14</sup>。

### 9.2 「思考の痕跡 (Chain of Thought)」とディスカバリー

Deep Thinkが「複数の仮説」を検証する過程で<sup>1</sup>、ユーザーにとって不利な結論(例: 「本製品は特許侵害の可能性がある」)を一時的に導き出し、その後棄却したとします。もし訴訟になった場合、このAIの「内部的な思考プロセス」やログは、米国のディスカバリー(証拠開示手続き)の対象となるのでしょうか? AIが侵害の可能性を一瞬でも考慮した記録が残っていれば、それが「故意侵害 (Willful Infringement)」の証拠として採用されるリスクがあります。Deep Thinkの推論トレースの監査可能性と秘匿特権 (Attorney-Client Privilege) の適用範囲は、今後の法的議論の焦点となるでしょう<sup>31</sup>。

### 9.3 コストとレイテンシのトレードオフ

Deep Thinkは計算コストが高く、応答速度もProに比べて遅くなります<sup>13</sup>。日常的な報告メールや単純な翻訳といった業務にはGemini 3 Proが適しており、Deep Thinkは「企業の命運を握る (Bet-the-company)」ような重要な戦略判断や、複雑な鑑定業務に限定して使用されるハイブリッドな運用モデルが主流になると予想されます。

---

## 10. 結論: アルゴリズム法学の幕開け

Gemini 3 Proから**Gemini 3 Deep Think**への進化は、知財AIツールが「検索と取得 (Retrieval)」の時代を終え、「分析と戦略 (Reasoning and Strategy)」の時代へと突入したことを告げています。Gemini 3 Proが特許を「読む」ことを自動化したとすれば、Gemini 3 Deep Thinkは発明を「理解する」ことを自動化し始めています。

知財専門家にとって、これは職務の喪失ではなく、能力の飛躍的拡張を意味します。Deep Thinkは、審査官、裁判官、そして競合他社の思考をシミュレートする「フォース・マルチプライヤー (戦力増幅装置)」として機能します。これにより、知財戦略は事後的な権利保護から、将来の紛争や技術トレ

ンドを予測し先手を打つ「プレディクティブ(予測的)IP」へと変質します。

Deep Think時代の知財業務において真に価値を持つのは、先行技術を見つける能力(それはAIが担う)ではなく、AIが提示する複雑な推論結果を解釈し、それをビジネスの文脈に統合して、無限に生成される合成データの中で最も堅牢な「発明の物語」を構築する能力となるでしょう。これは、弁理士や知財担当者が「テキストのドラフター」から「法戦略のアーキテクト」へと進化することを求めています。

## 引用文献

1. Google rolls out Gemini 3 Deep Think to deliver advanced reasoning: How powerful is it and who can use it?, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.livemint.com/technology/tech-news/google-rolls-out-gemini-3-deep-think-to-deliver-advanced-reasoning-how-powerful-is-it-and-who-can-use-it-11764909501711.html>
2. Gemini 3 Deep Think Review: Is Google's "System 2" Monster Worth the Ultra Price?, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://binaryverseai.com/gemini-3-deep-think-review-benchmarks-pricing/>
3. Gemini 3 Pro: the frontier of vision AI, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://blog.google/technology/developers/gemini-3-pro-vision/>
4. A new era of intelligence with Gemini 3 - Google Blog, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://blog.google/products/gemini/gemini-3/>
5. Gemini 3 Pro - Google DeepMind, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://deepmind.google/models/gemini/pro/>
6. Gemini 3 Deep Think is now available in the Gemini app. - Google Blog, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://blog.google/products/gemini/gemini-3-deep-think/>
7. Gemini models | Gemini API | Google AI for Developers, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/models>
8. Gemini 3: Google's Most Powerful LLM - DataCamp, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.datacamp.com/blog/gemini-3>
9. Gemini 3 "Deep Think" benchmarks released: Hits 45.1% on ARC-AGI-2 more than doubling GPT-5.1 : r/singularity - Reddit, 12月 7, 2025にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/singularity/comments/1pec4zg/gemini\\_3\\_deep\\_think\\_benchmarks\\_released\\_hits\\_451/](https://www.reddit.com/r/singularity/comments/1pec4zg/gemini_3_deep_think_benchmarks_released_hits_451/)
10. Gemini 3 Deep Think: Google CEO Sundar Pichai says it brings company's 'strongest reasoning capabilities', 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/gemini-3-deep-think-google-ceo-sundar-pichai-says-it-brings-companys-strongest-reasoning-capabilities/articleshow/125791128.cms>
11. Gemini 3 Pro: Google's Most Important AI Breakthrough Since Transformers - Medium, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://medium.com/@ranjanunicode22/gemini-3-pro-googles-most-important-ai-breakthrough-since-transformers-1d3da67a2ab6>
12. Agentic Search for Prior Art: AI Patentability Analysis Redefined - DeepIP, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.deepip.ai/blog/agentic-search-prior-art>

13. Google's Deep Think mode is finally here for Gemini 3, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.techloy.com/googles-deep-think-mode-is-finally-here-for-gemini-3/>
14. Gemini 3 in Healthcare: An Analysis of Its Capabilities - IntuitionLabs, 12月 7, 2025  
にアクセス、<https://intuitionlabs.ai/articles/gemini-3-healthcare-applications>
15. Gemini 3 in Healthcare: An Analysis of Its Capabilities - IntuitionLabs.ai, 12月 7,  
2025にアクセス、  
<https://intuitionlabs.ai/pdfs/gemini-3-in-healthcare-an-analysis-of-its-capabilities.pdf>
16. Google rolling out Gemini 3 Deep Think to AI Ultra - 9to5Google, 12月 7, 2025にア  
クセス、<https://9to5google.com/2025/12/04/gemini-3-deep-think/>
17. ToC: Tree-of-Claims Search with Multi-Agent Language Models - arXiv, 12月 7,  
2025にアクセス、<https://arxiv.org/html/2511.16972v1>
18. Beyond Scaling: Predicting Patent Approval with Domain-specific Fine-grained  
Claim Dependency Graph - ACL Anthology, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://aclanthology.org/2024.acl-long.285.pdf>
19. Insights - Paximal, 12月 7, 2025にアクセス、<https://www.paximal.com/insights>
20. The Future of Patent Intelligence Tools: How AI is Revolutionizing the Landscape,  
12月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.drugpatentwatch.com/blog/the-future-of-patent-intelligence-tools-how-ai-is-revolutionizing-the-landscape/>
21. Google's Gemini 3 Release Signals the End of Cautious AI Rollouts | Shelly Palmer,  
12月 7, 2025にアクセス、  
<https://shellypalmer.com/2025/11/googles-gemini-3-release-signals-the-end-of-cautious-ai-rollouts/>
22. Patent Landscape Analysis AI Prompt - Taskade, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.taskade.com/prompts/research/patent-landscape-analysis-prompt>
23. What Is Gemini 3 Dynamic View? Full Breakdown and Real Examples - Global GPT,  
12月 7, 2025にアクセス、  
<https://www.glbgpt.com/nl/hub/what-is-gemini-3-dynamic-view/>
24. Generative UI: A rich, custom, visual interactive user experience for any prompt,  
12月 7, 2025にアクセス、  
<https://research.google/blog/generative-ui-a-rich-custom-visual-interactive-user-experience-for-any-prompt/>
25. Gemini Apps' release updates & improvements, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://gemini.google/release-notes/>
26. Gemini 3 Generative UI: How AI Creates Custom Interfaces (With Examples) -  
Skywork.ai, 12月 7, 2025にアクセス、  
<https://skywork.ai/blog/ai-agent/gemini-3-generative-ui/>
27. You can create magazine style content AND interactive dashboards / apps for  
education on any topic in minutes with Gemini 3. Gemini AI's Canvas vs. Dynamic  
View vs. Visual Layout: The Breakdown of what Gemini's new trio can do for you -  
and some fun examples. : r/ThinkingDeeplyAI - Reddit, 12月 7, 2025にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/ThinkingDeeplyAI/comments/1p4e691/you\\_can\\_create\\_magazine\\_style\\_content\\_and/](https://www.reddit.com/r/ThinkingDeeplyAI/comments/1p4e691/you_can_create_magazine_style_content_and/)
28. Generative UI from Gemini 3 Pro - UX Tigers, 12月 7, 2025にアクセス、

- <https://www.uxtigers.com/post/generative-ui-google>
29. I just tested ChatGPT-5.1 vs. Gemini 3 — and one AI crushed the competition | Tom's Guide, 12月 7, 2025|にアクセス、  
<https://www.tomsguide.com/ai/i-just-tested-gemini-3-vs-chatgpt-5-1-and-one-ai-crushed-the-competition>
30. Gemini's AI-powered "Deep Research" feature struggles with accuracy in early testing, 12月 7, 2025|にアクセス、  
<https://the-decoder.com/gemini-ai-powered-deep-research-feature-struggles-with-accuracy-in-early-testing/>
31. US20230244938A1 - Using Chains of Thought to Prompt Machine-Learned Models Pre-Trained on Diversified Objectives - Google Patents, 12月 7, 2025|にアクセス、  
<https://patents.google.com/patent/US20230244938A1/en>
32. Chain-of-Thought collection - Kaggle, 12月 7, 2025|にアクセス、  
<https://www.kaggle.com/datasets/konradb/chain-of-thought-collection/data>
33. OpenAI Ordered to Hand Over 20M ChatGPT Logs - eWeek, 12月 7, 2025|にアクセス、  
<https://www.eweek.com/news/openai-chatgpt-logs-new-york-times-copyright-mdl/>
34. Gemini 3 Grounding with Google Search: Industry Disruption Analysis 2025 - Sparkco, 12月 7, 2025|にアクセス、  
<https://sparkco.ai/blog/gemini-3-grounding-with-google-search>